

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地		
中央動物総合専門学校		令和2年3月30日		鈴木 康之		〒 424-0806 (住所) 静岡県静岡市清水区辻1-12-17 (電話) 054-371-7000		
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地		
学校法人鈴木学園		昭和43年11月9日		理事長 鈴木 啓之		〒 411-0036 (住所) 静岡県三島市一番町15-35 (電話) 055-971-1833		
分野	認定課程名	認定学科名		専任士認定年度	高度専任士認定年度	職業実践専門課程認定年度		
文化・教養	文化教養専門課程	動物総合学科海洋アクアリウムコース		令和 2(2020)年度	-	令和 4(2022)年度		
学科の目的	第3条 中央動物総合専門学校は、教育基本法(昭和22年法律第25号)の精神に則り、学校教育法(昭和22年法律第26号)に従い、動物看護師、トリマー、動物飼育員の養成を行うとともに、教養の向上と人格の陶冶を図るため、組織的な教育を行うことを目的とする。							
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	愛玩動物飼養管理士取得に必要な学科・実習を行う。 1年時に基本、2年時に応用の内容を学習し、実践的な実力を身につけさせる。 NAVAペットケアアドバイザー、潜水士、オープン・ウォーター・ダイバー、アニマルトレーナー2級 ほか							
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入	2,054 単位時間	1,048 単位時間	26 単位時間	738 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
			単位	単位	単位	単位	単位	単位
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)	中退率			
110「110の内数」人	115「110の内数」人	0 人		0 %	6 %			
就職等の状況	■卒業者数(C)		82	人				
	■就職希望者数(D)		80	人				
	■就職者数(E)		74	人				
	■地元就職者数(F)		60	人				
	■就職率(E/D)		93	%				
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)							
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		81	%				
	■進学者数		90	%				
	■その他		2	人				
	進路未定者:6名							
(令和 5 年度卒業者にに関する令和 6 年 5 月 1 日時点の情報)								
■主な就職先、業界等 (令和5年度卒業生)		トリミングサロン、動物園、水族館、観光牧場、ペットショップなど						
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価:		無					
※有る場合、例えば以下について任意記載		評価団体: —		受審年月: —		評価結果を掲載したホームページURL —		
当該学科のホームページURL	—							
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A: 単位時間による算定)							
	総授業時数		2,054 単位時間					
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		0 単位時間					
	うち企業等と連携した演習の授業時数		0 単位時間					
	うち必修授業時数		0 単位時間					
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		0 単位時間					
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		0 単位時間					
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		140 単位時間					
	(B: 単位数による算定)							
	総単位数		単位					
うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数		単位						
うち企業等と連携した演習の単位数		単位						
うち必修単位数		単位						
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数		単位						
うち企業等と連携した必修の演習の単位数		単位						
(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)		単位						
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)		7 人					
	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)		9 人					
	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)		0 人					
	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)		0 人					
	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)		1 人					
	計		17 人					
上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数		1 人						

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

□教育編成委員会を通して、出された意見をできる限りその年度の授業に反映していく。

また、学科内で情報を共有し、適宜カリキュラムの見直しを行う。

・授業外で企業と連携した特別講義を実施し、常に新しい知識と技術の修得ができる時間を確保する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

動物分野に関する企業、団体等との連携体制を確保して、教育課程の編成を行うために、「教育課程編成委員会」を設置。教育課程編成委員は中央動物総合専門学校教員と企業関係者等の外部役員から成るものとし、動物業界の動向や教育に導入すべき先端知識や技術等について意見を交換し、より質の高い教育課程の編成を行うものと位置付ける。生徒が卒業後に企業等で有用な人材をなるために、業界の要請を十分に取り入れた実践的な職業教育が主体的・協働的に編成されるよう、2回の会議と学科会議・コース会議を経て、校長の承認を得て決定する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和4年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
鈴木 康之	中央動物総合専門学校	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	—
矢野 裕季	中央動物総合専門学校	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	—
鈴木 大揮	中央動物総合専門学校	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	—
土屋 考司	伊豆・三津シーパラダイス	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	①
真野 光晃	スマートアクアリウム静岡	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	③
高柳 好美	アクアリウムジムノ	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	③

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(10月、3月)

(開催日時(実績))

第1回 令和5年8月8日 11:00～12:30

第2回 令和6年2月9日 13:30～15:00

0

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

教育課程編成委員会の意見を反映して、以下の点を改善する。

- ・フィールドワーク、水槽管理実習（清水銀座水槽管理）は現場の視点から見ても重要とのこと。内容を再検討し、より実践的な実習にする必要がある。フィールドワークにおいては季節による違いに関してもより深く触れていきたい。
- ・研修先の候補に卸の業者やショップを組み込み、流通についても学ぶべきと意見をいただいた。研修の目的に沿った新たな研修先を開拓していく必要がある。
- ・飼育種に関しては、種類を増やすよりも現状の飼育種を確実に維持していくことができるかが重要とのことであった。特に夏場の水槽管理が不安定になりがちであるため、現在の飼育種の管理が安定するように飼育管理の体制も改善させる必要がある。
- ・水槽の清掃方法や大型水槽の管理方法等は座学でも取り入れていきたい。オンデマンド教材などを利用できればより理解度を向上させることが期待できる。魚類学、水棲哺乳類学では形態面の内容もより詳細に組み込んでいきたい。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

・患者さんへの対応や大動物、海洋動物などの実習は校内で指導することや学生自身が経験することが難しい。実習時に専門分野に関する知識・技能・技術（最新技術や専門性の高い技術）を施設等で経験することは、就職後の実務を遂行する上で大切である。また、企業ニーズ、業界ビジョンを教授することで、仕事に対する目標や、将来像を具体化できる。その他社会人基礎力の習得やその方法を学ぶことができ、社会人力育成に繋がる。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

□実務に必要な知識と技術の臨地研修

・現場体験と講話による研修

企業等の学生に対する評価表をもとに、学生へフィードバックおよび指導を行っている。また学生は研修内容を発表して他学生と共有している。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	企業連携の方法	科目概要	連携企業等
インターンシップ	3. 【校外】企業内実習 (4に該当するものを除く。)	就職試験を想定した、一般教養やSPIなどの対策を行う	伊豆三津シーパラダイス・うな利水
		就職試験を想定した、一般教養やSPIなどの対策を行う	
		水棲生物に関する専門用語を学び演習する。	
		オープンウォーターダイバーの資格取得を目標としたプールや外洋での実習を行い、潜水の技術を身に着ける	
		〇〇〇〇〇	

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

学校法人鈴木学園教職員の研修実施要綱において、教職員は、団体・組織等との連携のもと、専攻分野における実務に関する知識、技術及び技能の修得・向上並びに、授業及び生徒に対する指導力等の修得・向上を図ることを目的として研修機会を確保し、計画的に受講し、研修後は学内での情報共有を図るとともにその成果を教育内容・教育方法に反映する。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	関東研修	連携企業等:	新江ノ島水族館など
期間:	令和5年12月14日～令和5年12月15日	対象:	常勤教職員
内容	新江ノ島水族館などの施設で研修を行い、実務を学習する		
研修名:	アニマルキーパーズカレッジ合同研修	連携企業等:	アニマルキーパーズカレッジ
期間:	令和5年6月28日～令和5年6月30日	対象:	常勤教職員
内容	アニマルキーパーズカレッジとの合同研修で飼育など指導技術を学ぶ		
研修名:	0	連携企業等:	0
期間:	0	対象:	0
内容	0		
② 指導力の修得・向上のための研修等			
研修名:	学校法人鈴木学園 夏期教職員研修会	連携企業等:	学校法人鈴木学園
期間:	45140	対象:	常勤教職員
内容	組織、生成AI、各校取り組みについて知る		
研修名:	学校法人鈴木学園 春期教職員研修会	連携企業等:	学校法人鈴木学園
期間:	令和6年3月21日	対象:	常勤教職員
内容	個人目標、クレド、取り組み、森吉弘先生講演など		
研修名:	新任教員研修会	連携企業等:	公益財団法人静岡県職業教育振興会
期間:	令和5年8月2日～令和5年8月10日	対象:	常勤教員
内容	専修学校の新任教員に対し、専修学校教員として必要な基礎知識を身につけさせることにより本県の専修学校教員の資質向上を図る。		

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	日本さかな専門学校	連携企業等:	日本さかな専門学校
期間:	未定	対象:	常勤職員
内容	日本さかな専門学校に訪問し、専門実務および学校運営の研修を行う。		
研修名:	沖縄ペットワールド専門学校 訪問研修	連携企業等:	学校法人KBC学園 専門学校沖縄ペットワールド専門学校
期間:	未定	対象:	常勤職員
内容	沖縄ペットワールド専門学校に訪問し、専門実務および学校運営の研修を行う。		
研修名:	0	連携企業等:	0
期間:	0	対象:	0
内容	0		
② 指導力の修得・向上のための研修等			
研修名:	学校法人鈴木学園 夏期教職員研修会	連携企業等:	学校法人鈴木学園
期間:	45506	対象:	常勤教職員
内容	未定。		
研修名:	学校法人鈴木学園 春期教職員研修会	連携企業等:	学校法人鈴木学園
期間:	45737	対象:	常勤教職員
内容	未定。		
研修名:	0	連携企業等:	0
期間:	0	対象:	0
内容	0		

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学生による学校、教員評価の結果と教職員による学校評価の結果、及び年間計画やカリキュラム、資格試験合格率、就職実績等の資料を基に当該年度の教育活動、前年度の結果を4. (2)にある項目ごとに評価する。評価に当たっては以下の点が守られていること。

□自己評価に対する評価を基本とし、改善方策・評価項目・重点目標、学校運営の改善取組み等について言及されていること。

□自己評価の評価結果に対して、評価項目ごと学校関係者評価結果が付された相対的な記載となっていること。

□学校関係者評価委員会が、主体的・能動的な評価を実施していること。

【改善等への活用方針】

・改善案は評価項目毎の評価を基に、学校関係者評価委員に改善の方針をできるだけ委員会内で示す。

・学校関係者評価委員会の評価を参考に具体的な活用方法については学校内で別途検討する。

・改善した内容に関しては、職業実践専門課程様式4に基づいて毎年公開する。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	(1) 教育理念・目標
(2) 学校運営	(2) 学校運営
(3) 教育活動	(3) 教育活動
(4) 学修成果	(4) 学修成果
(5) 学生支援	(5) 学生支援
(6) 教育環境	(6) 教育環境
(7) 学生の受入れ募集	(7) 学生の受入れ募集
(8) 財務	(8) 財務
(9) 法令等の遵守	(9) 法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

・教職員の情報共有については日々見直しを行う。

・スケジュールを細かく行い、教育行事の準備に余裕を持つようにする。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
菊田 和美	企業等委員	令和5年6月1日～ 令和6年5月31日(1年)	企業等委員
杉本 さゆり	在学生保護者	令和5年6月1日～ 令和6年5月31日(1年)	保護者
滝口 智子	中央調理製菓専門学校静岡校	令和5年6月1日～ 令和6年5月31日(1年)	他校関係者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://suzuki.ac.jp/animal/disclosure/>

公表時期: 45444

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針
ホームページへの学校活動の掲示

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	開 示:学校の概要、事業計画
(2)各学科等の教育	開 示:カリキュラム(HP、パンフレット)
(3)教職員	開 示:教職員
(4)キャリア教育・実践的職業教育	開 示:インターンシップ研修
(5)様々な教育活動・教育環境	開 示:年間スケジュール
(6)学生の生活支援	開 示:アパート紹介
(7)学生納付金・修学支援	開 示:納付金
(8)学校の財務	開 示:貸借対照表、収支計算書
(9)学校評価	開 示:学校関係者評価
(10)国際連携の状況	
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://suzuki.ac.jp/animal/disclosure/>

公表時期: 45444

授業科目等の概要

(文化教養専門課程 動物総合学科海洋アクアリウムコース)															
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			ビジネス論 I	ペット業界で働くものとして身につけておかなければならない必要な知識を学ぶ。	1通	54	○	△	○			○		
2	○			ビジネス論 II	ペット業界で働くものとして身につけておかなければならない必要な知識を学ぶ。	1通	60	○	△	○			○		
3	○			小論文	文章校正、テーマ選定、リサーチ技術、表現技法など、小論文に関する技術を身に着ける。	1通	30	○			○			○	
4	○			公衆衛生学	環境及び食品衛生、疫学、人獣共通感染症について学び、人の健康の維持・増進や疾病予防への応用について理解する	1前	26	○			○			○	
5	○			生物分類学 I	生物分類について学び理解を深める	1通	54	○			○			○	
6	○			生物分類学 II	生物分類について学び、より理解を深める	2通	30	○			○			○	
7	○			愛玩動物飼養管理学	動物の愛護及び適正飼養に関連する様々な法規について学び、人と動物の共生のあり方を理解する。また、愛玩動物の歴史や品種、使役動物の歴史や役割、適切な飼養管理方法について理解する	1通	90	○			○			○	
8	○			水族館収集輸送各論	水族館における生物の採取方法から輸送、展示までの流れについて理解する。また、各分類方法や種の同定方法についても理解する	1通	54	○			○			○	
9	○			水族館教育各論	水族館における役割、施設としての重要性からお客様への情報の伝え方、展示手法などについても理解を深める。	2通	60	○			○			○	
10	○			魚類学/実習 I	魚類に関して、幅広く学ぶ。	1通	54	○	△	○				○	
11	○			魚類学/実習 II	魚類に関して、より幅広く学ぶ。	2通	60	○	△	○				○	
12	○			水棲哺乳類学 I	水棲哺乳類に関して、幅広く学ぶ。	1通	54	○			○			○	
13	○			水棲哺乳類学 II	水棲哺乳類に関して、より幅広く学ぶ。	2通	60	○			○			○	
14	○			コンパニオンアニマル学 I	ショップで販売される小型哺乳類、鳥類、爬虫類の飼育方法、特徴、疾病などの理解を深める	1通	36	○			○			○	
15	○			コンパニオンアニマル学 II	ショップで販売される小型哺乳類、鳥類、爬虫類の飼育方法、特徴、疾病などの理解をより深める	2通	60	○			○			○	
16	○			トレーニング学/実習	犬のトレーニング方法を学び実際に動物に対してトレーニングを行う	1通	30	○	△	○				○	
17	○			ドルフィントレーニング学/実習	海洋哺乳類のトレーニング方法を学び理解を深める。	2通	60	○	△	○				○	
18	○			アクアリウム学/実習 I	水槽のレイアウト方法、機器のメンテナンス方法、生体の管理について理解を深める	1通	##				○	○		○	
19	○			アクアリウム学/実習 II	水槽のレイアウト方法、機器のメンテナンス方法、生体の管理について理解をより深める	2通	##				○	○		○	

20	○	飼育実習Ⅰ	学校内の小動物の飼育管理を通して、知識と技術を身に着ける。	1 通	90				○	○	○			
21	○	飼育実習Ⅱ	学校内の小動物の飼育管理を通して、知識と技術をより身に着ける。また下級生への指導を通して指導力を身に着ける。	2 通	30				○	○	○			
22	○	スイミング実習Ⅰ	泳力の強化を行う	1 通	80				○	○	○			
23	○	スイミング実習Ⅱ	就職試験を想定した泳力の強化を行う	2 通	80				○	○	○			
24	○	水槽管理実習（清水銀座）	お客様へ水槽レイアウトをプレゼンを行い、お客様のニーズに合わせた水槽を設置、メンテナンスを行うことで接客や水槽管理の技術を身に着ける。	2 通	90				○	○	○			
25	○	フィールドワーク実習	海や川などの自然環境を舞台に実地学習を行う。	2 通	60				○	○	○			
26	○	動物製菓実習Ⅰ	動物（犬）の間食となるおやつや食事の作りについて基礎を学ぶ	1 通	54				○	○	○	○		
27	○	動物製菓実習Ⅱ	動物（犬）の栄養についての理解を深めつつおやつや食事の作り方を学ぶ	2 通	60				○	○	○	○		
28	○	ペットケアアドバイザー	犬を中心とした動物の基本的な飼育管理の方法や病気の知識を身に着ける	1 通	36	○			○			○		
29	○	ペット防災概論	平常時及び災害時に人と動物が共生できる社会の実現化・動物の愛護と福祉の実現化を目指し学ぶ	2 通	30	○			○			○		
30	○	ダイビング学	オープンウォーターダイバーと潜水士の資格合格を目標とした対策を行う	1 通	54	○			○			○		
31	○	就職試験対策Ⅰ	就職試験を想定した、一般教養やSPIなどの対策を行う	1 通	26	○			○			○		
32	○	就職試験対策Ⅱ	就職試験を想定した、一般教養やSPIなどの対策を行う	2 通	30	○			○			○		
33	○	専門用語演習	水棲生物に関する専門用語を学び演習する。	1 通	26		○		○			○		
34	○	インターンシップⅠ	企業へ行き現場のスタッフと同じ業務を行うことで、業界理解、職業理解を深める	1 後	80				○	○	○	○	○	○
35	○	インターンシップⅡ	企業へ行き現場のスタッフと同じ業務を行うことで、業界理解、職業理解を深める	2 前	60				○	○	○	○	○	○
36	○	ダイビング演習	オープンウォーターダイバーの資格取得を目標としたプールや外洋での実習を行い、潜水の技術を身に着ける	1 通	24				○			○		
37	○	実践力育成	接客能力や非認知能力を高めるためにオープンキャンパス等の学生スタッフを通じて総合的な能力を高める学習を行う。	1 通/ 2 通	30				○	○		○		
38	○	海外施設見学研修	海外の施設を見学することにより文化の違いを理解し、多様性を学ぶ。	1 通/ 2 通	60				○	○		○		
合計					38	科目	2054 単位（単位時間）							

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：全科目履修		1 学年の学期区分	2 期
履修方法：各教科における定期試験・課題・出席について学則に定める合格点を取得すること。		1 学期の授業期間	15 週

- （留意事項）
- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
 - 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。